

○タウンミーティング議事録(概要)

日 時:令和3年10月12日(火)

午後7時から午後8時30分まで

場 所:岩瀬カナル会館 本館大ホール

出席者:13人

テーマ 第2次富山市総合計画後期基本計画(案)について

【テーマの説明に対する質問】

・子どもの学校のことについて、デジタル化社会になりコンピュータや英語など様々な教科が増えていますが、それによって子どもたちの学びが大変で、窮屈なものになっています。そのことによって友達同士で学ぶことが少なくなり、子どもの心も寂しくなっています。どのような学びが必要か考えるにあたって、先ほど言われていたコミュニティスクールというのは大切なものだと思います。また、地域の人達と一緒に子どもたちの学びをどうしたらいいか考えることも大切なものだと思います。これを実現させるためには子どものことをもっと理解しなければいけないと思います。地域の人や学校の理解もまだ足りなくて、学校、保護者などが子どもの権利や子どものことをもっと知って、学校で排除されがちになちよっと活発な子どもたち、発達障害のことについても学ばなければいけないと思います。そのために地域などで様々な講座を開いたりして、その理解を深めるところから始めなければ、頭ごなしに地域の人が子どもに怒ったりされると、親はすごく寂しい思いをするので、まずはその理解から深めて欲しいと思います。

(市長)

今おっしゃったように学校は今、たくさんの課題を抱えています。例えば英語教育やICT教育、プログラミング教育なども新しく入ってきましたし、小学校の先生には専門性

が求められるという時代になってきました。しかし、これは周りの社会やICTの専門家、英語の専門家、ネイティブの方などが協力しながら、何とか、導入してきているというような段階であります。また、児童生徒に対して過度に無理がかからないような配慮が必要だと思っています。教育委員会にもしっかりお伝えしますし、教育委員会とのコミュニケーションもしっかりやっていきたいと思っています。

また、個別に配慮が必要な、例えば発達障害を持つお子さんへの理解は、児童生徒、PTAも含めて勉強していく、あるいは理解を深めていくことが非常に大切なことでもあります。これは、様々な場面で、例えばPTAが主体になってやっていらっしやったり、教育委員会の先生の研修でそういうことを広く周知するということをずっと続けてきておりますが、なかなか個別に違うケースが多く、理解が進んでない部分もあると思います。今のご意見をしっかりとお聞きして、そのような研修や周知などを広げてまいりたいと思っています。

それと、コミュニティスクールも大事なので、小中学校で取り組んでいただきたいと思っています。今でも地域の方々に小学校や中学校を一生懸命盛り上げていただいておりますが、校則の変更や学校行事の変更、削減、追加なども含めて、例えば今のような意見についても学校と地域が一体となって、必要があれば研修なども一緒にできますので、まずはコミュニティスクールを作っていただくことから始めていただきたいと思えます。問い合わせいただければ、いつでも説明いたしますので、ぜひ地元の学校でもそのようなご意見を出してみてください。

・まず公共交通の面でのライトレールのことについてですが、森市政から藤井市長に引き継がれ、引き続き公共交通の大切さについての計画、十分に理解をさせていただきました。ただ一つ、14年間のライトレールの経営で、市から90億円近い助成金が出たというように思っていますが、そういう認識でよろしいでしょうか。最後の15年目はわかりませんが、そのような助成金が出て初めてライトレールの経営が黒字であったという形がとられていると思います。上下分離方式を別にしても、通常の運行でそれだけの助

成金が出ています。財務諸表上だけを見ると、当然黒字経営、ライトレール株式会社も初年度から黒字でしたという発表をされていますので、一般市民にとってはずっと黒字で経営してきたという認識が大変強いと思います。これでは誤った情報の伝わり方だと思ひますし、これから公共交通の重要性、公共交通の整備についての要望が大変強い状況の中にあつて、間違った情報のもとに公共交通の整備を充実していくということは、非常に難しいと思ひます。公共交通は大事だから市民の負担もありますよという形じゃないと、間違った誘導の仕方になっていく可能性が強いのではないかと思ひますので、そのあたりは是正をしていただきたく思ひます。

それと同時に、公共交通、歩いて暮らせるまちづくりということも大変重要にされています。その一環として自然の中で健康になるために、自転車の利用も促進する。その中でアヴィレの設定もあるかと思ひますが、今の交通インフラの整備状況の中で、自転車の利用というのは非常にリスクが高いと思ひます。先日も奥田地区で死亡事故が発生しましたが、これから高齢者がどんどん自転車をということになると、さらにリスクが大きくなると思ひます。そういう中で、特に冬場、雨が多い富山では自転車の利用というのは必ずしも勧められるような交通手段ではないのではないかと思ひています。アヴィレも聞くところによると、市の職員の方の利用が大変多いというように聞ひていますが、その辺も含めて、現在の契約関係もあり、なかなか一度に切ることにはできないでしょうし、藤井市長も継続されると市議会でもご答弁されているようであり、大変難しい面もあるかと思ひますが、現在の利用状況はもう少し考慮した方がよいのではないかと思ひます。

特に今年の冬の大雪の中、業者の方がアヴィレを掘り出す姿に、歩道の除雪も済んでないのに自転車を掘り出してどうすんだと言ひたくなるような感じの状況があつたかと思ひていますので、このあたりも、ご検討していただければと思ひています。

あと、学校の再編について、学校教育全般でありますけれども、授業を共助、公助という形で民間が教育問題についても支えていかざるをえない状況だと思ひますが、別の見方をすると、民間の負担も大きくなってくる。朝日町のようにボランティア活動で部活動を支えるということを進めている町もありますが、共稼ぎの家庭が多い中、そしてま

た高齢者が増えている中で、民間の負担もかなり増えてきていると思います。地元でも青少年の健全育成の維持に、高齢者の方にその役割を担っていただいています、行政側の高い視点から質の高い担当者を配置して欲しいということで、それに答えるようにしていますが、それもなかなか負担が大きい。これも地域の現実かと思えます。そういう面でも、行政での負担がいいのか、民間での負担がいいのか、ある程度、数字で科学的に計量していく問題だと思えます。財政状態全体が圧迫される中、市民ができることはやっていくべきだと思いますが、果たして安易に民の方ばかりにしわ寄せしていくのはいかがなものかということも感じます。そのような点で、引き続き、様々なチェックをしていただければと思っています。

最後に、ビービーバスについて、岩瀬でトライアルで走らせていただけるということですが、岩瀬は観光面だけでなく、コミュニティバスとしての二次交通として、そういう環境問題に配慮した形でのバスの運行を今後も地域でしていただければそれに越したことはないと思っています。しかし、大変高額なバスだとお聞きしていますので、そういうバスでは当然無理だろうと思えます。そしてこれが富山県ではないメーカーさんだったのですが、トライアルを含めて、ぜひ地元にも自動車メーカーがありますので、そういうところの発注にも考慮して地元の産業振興に役立てていただきたいと思っています。

(市長)

的確に個別の事業を評価していただいて、ご意見をいただき感謝申し上げます。

まず公共交通、特にライトレールの今までの経緯をよくご存知で、市からの助成あるいは補助なども含めて、行政から 90 億円あまりの支援があつて、今、これだけ存続しているというご意見、ありがとうございました。実際、富山地方鉄道さんがやっておられる鉄軌道経営やバス路線経営については、県や市が応分の助成金、補助金を出しています。もちろん、ご商売をやっておられるので、それがなくても成り立つ経営が本来の経営だと思いますが、それを入れないと黒字化しないというので、そのようにして経営しております。しかし、行政もその補助金の原資は税金ですので、今のご意見をしっかり

肝に銘じて補助、助成をする、そして市民の皆さんの足を確保するという立場にあっても、元は税金だということをしっかりとわきまえて、緊張感を持って事業者とつき合っていきたいと思いました。

歩いて暮らせるまちづくりの中で、アヴィレという水色の自転車がまちなかに並んでいるのを見たことがあると思いますが、悩みは雨の日、冬の日です。そのような日に自転車に乗らない、それが現状だと思います。そこをどうやってクリアしていくかということも非常に問題で、定期的に議会の中でも取り上げられます。利用に比べてかけている事業費が大きいのではないかというような視点、それから、観光や市民の健康づくり、富山市内の観光づくりに果たして本当に寄与しているのかというような視点もあると思います。これも始めてからかなりの年月が経ちましたが、今のご意見も踏まえて、しっかり検証を行って、次にどうしていけばいいのか考えていくことも大事であると思っています。ただ、今の大きな計画の中の健康づくりの中の一環、あるいは観光の一環に位置付けられていますので、そういう計画の全体を見つめながら考えさせていただきたいと思います。いただいたご意見は、真摯に受け止めたいと思います。

学校の再編が進んでおりますが、学校の運営、部活動なども含めて、地域の力や民間のボランティアの力が大きくなってきています。部活動においては中学校に専門の先生がいなければ、地域で教えられる方がボランティアで教えに来ていただいているというのが現状です。このようなことも含めて、学校の運営の中に、先ほどのコミュニティスクールも含めて、地域の方々の力を借りなければ、運営していけないという状況が今現在、発生しています。

一つは、先生方の負担を減らしていこうという流れの中で、このようなことが発生しているわけですが、確かに先生方にも過度の負担がかかっていますが、先生方の負担を減らすことのためだけに、地域の方に手伝ってもらおうというのは、主旨が違うと思います。今ほど自助、共助、公助という話がありましたが、どの部分を地域の方々の力あるいは専門的な知識や指導方法をお持ちの方のノウハウをお借りするかということ、学校で本来は教えるべきところは、先生がしっかりと知識や経験やスキルを持って教えていくこと、

学校運営のこと、こういうこともしっかり地域で話し合っていく時期にきているということも感じますので、先ほどのご意見と一緒に、教育委員会にも話をしていきたいと思います。

最後に、今度岩瀬でグリーンスローモビリティの電気バスの実験させていただきます。ありがとうございます。いろんな可能性があると思います。一つは、低速でゆっくりとその町並みを楽しみながら観光のようにもできますし、実際に年配の方々がそれに乗って買い物に行ったり、駅に出かけて駅からどこかに出かけたりする地域交通にもなります。岩瀬も含めて、数箇所でこういう実証実験やらせていただいて、果たしてそれがどれぐらいの有用なものか見極めさせていただきたいと思っています。

【その他意見交換】

・今年、給食の牛乳で下痢原性大腸菌のことがありました。自分の学校でも何人かかかり、自分もかかりました。学校の給食等のそういうものをもう一度見直してもらいたいと思います。また、今、1人1台のパソコンが配られています。算数と国語の授業をもう少し楽しく勉強できるようにして欲しいです。コロナで委員会もできなくなっているの、いろいろできるようになったらいいなと思います。

(市長)

牛乳の件は本当に皆さんに迷惑かけたと思っています。本当にこういうことはあつてはいけないので、教育委員会も、そして、保健所を含めた我々市長部局も一緒になって、そういう食中毒が起きないように頑張っていきたいと思っています。

それと、タブレットなどで算数などをもっと楽しくということではありますが、そういうご意見をぜひ先生にも言っていただいて、どんなところをどうすればもっと楽しくなるのか具体的にクラスの友達と話し合いながら、先生に言ってもらえば、少しずつ良くなっていくと思うので、ぜひ言ってみてくださいね。委員会の話もそうだと思います。しっかり教育委員会にもお伝えします。

・市役所でやられる事業、県でやられる事業、民間の事業、商売、この中で協力しあえる部分は協力し合っていていいのですが、何か不具合があった時、例えば今の牛乳の話ですが、官と民が一緒にやっている場合は、いつまでに誰がちゃんとやるかということ、必ず官の方からしっかりと行ってもらわなければいけないと思います。牛乳の話においても、はっきりしないまま、業者さんだけがかわいそうな目にあっているような感じの部分もあります。

子どもの勉強の方でも、例えば算数の授業が面白くない、国語の授業がおもしろくない。それは、何がおもしろくないのか、先生が提供するタブレットや教材がおもしろくないのか。それであればYouTubeの動画を見てもいいんじゃないか、お笑い芸人のやっている動画を見てもいいんじゃないかというように、柔軟に官と民の折り合いをつけて動いてもらえたらいいのではないかと思います。

あとは、コロナ禍で苦しんでおられる自営業の方や会社員の方の声が、うまく市役所など必要なところにしっかりと届くような体制を作っていただきたいと思います。

(市長)

官と民の関係ですが、確かに皆さんに伝わりにくいところもあると思いますが、市発注や市主催のものについては、基本的には官の方が主導で仕切っていかなければいけないと思っています。

また、食中毒の話で牛乳の話が出ましたが、なかなか特定が難しく、まず一義的にはお子さんに迷惑をかけた、保護者の方に迷惑をかけた、学校に迷惑をかけた。そういうところのケアが一番大事だったのですが、保護者の皆さんからは、何をいつまでするかが伝わらない、どこがどうなっているのか情報が足りない、市役所は情報発信ができてないんじゃないかという声がたくさんありましたので、教育委員会と話し合い、プリントや学校のメールなどあらゆる手段を使って情報発信を行いました。それでも一部伝わらなかった部分があるのではないかという反省はあります。ですので、特に学校でそのようなことが多いと思いますので、情報の伝え方ということについて、しっかりとまた

持ち帰って話をしたいと思います。

算数や国語の授業が面白くないというお話に関しては、教材そのものがおもしろくないということ、勉強が嫌いだということ、先生の教え方がおもしろくないなど、いろいろあると思いますが、皆さんに興味を持ってもらうことは義務教育でも大事ですので、教育委員会とも話をさせていただきたいと思います。

特にコロナ禍で苦しんでいる方々の声が届くようにということは非常に大事であります。市役所には様々な窓口がありますし、メールや電話で問い合わせをすれば回答するという仕組みになっておりますので、何か困りごとやこうしたほうがいいのではないかという提案事がありましたら、専門の課にお問い合わせいただくか、市役所の代表電話にかけていただければ、担当課に繋がるようになっていきます。すべての方に満足のいく回答ができるかは別ですが、なるべく対応は細かく、相談された方の目を見て、しっかりと回答するよう全庁一致して考えております。ぜひ、いろんなご意見をお寄せいただければと思います。

・今、コロナ禍により子どもたちがすごく我慢をしています。給付金が出ても親が使ってしまうような状態で、子どもには何も恩恵がありません。学校行事も中止になるなど、苦しい中で学校を頑張っています。だから子どもたちに何かご褒美として与えられるように、例えば学校や幼稚園で楽しい企画を市から提供していただくとか、飲食店などと協力して、おいしいお菓子やご飯を提供してもらえらるようなことをしていただけたらと思います。

また、コロナ禍で親が子どもの大事な行事に参加できないような状況になっています。ですので、例えば卒園式などに出席する保護者などにPCR検査や抗原検査の補助をしていただくと助かります。

また、不登校の子が学べる場所をもっと作っていただきたいです。富山市はその他の場所に行くと、それが出席にならなかつたりしているので、もう少し居場所を作って、そういうものを出席扱いにするなど、学びに対して多様性を持っていただけるとありがた

いと思います。

※発言の一部を整理して掲載しています。(広報課)